

第4学年3組図画工作科学習指導案

令和3年10月1日(金)第5校時

場所

図工室

1 題材名「ほって出てくる不思議な世界」

A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア、[共通事項](1)ア、イ 絵に表す活動

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、図画工作科の時間を楽しみにしており、毎時間意欲的に活動している。1学期の「絵の具のぼうけん、たのしさ発見!」では、段ボールや歯ブラシ、ビー玉、ストローなど身近材料を使って、絵の具の新しい楽しさを発見した。その経験を生かし「木々を見つめて」では、絵の具を使って色づくりや混色、筆使いなど、さまざまに試しながら自分のイメージに合わせて木を描くことができた。鑑賞の時間には、友達作品のよさを見つけて称賛する場面が多く見られた。アンケートでは、「図工の時間が好きですか」の質問に対し、「はい」と答えた児童が32名中31名だった。好きな理由としては、いろいろな作品が作れる、絵を描いたり、物をつくったりするのが楽しい、友達に褒められると嬉しいといった理由であった。しかし、「材料や道具を工夫して作ることができますか」の質問では、16名の児童が「いいえ」と答えている。どう工夫していいかわからなかったり、アイデアが浮かばなかったりという原因があることがわかった。また、「自分の作品のよいところを見つけられますか」の質問に対しては、14名の児童が「いいえ」と答えており、自信をもって紹介することにも課題があることがわかった。本題材を通して、自分の思いを表現し、自分の作品のよさを自信をもって伝えることができるよう工夫をしていきたい。

(2) 本題材を指導するにあたって

本題材は、彫りや刷りなどを試しながら工夫して表す版画の題材である。彫ったところにはインクがつかないために、刷ったときに白くなるという版画の原理から想像を広げて版画に表していく。また、初めて彫刻刀を扱う題材である。彫刻刀の種類による線の違いといった知識や彫りや刷りの基本的な技能を身に付けさせるとともに、彫刻刀で彫る楽しさを十分に味わわせるように指導したい。1学年では、身のまわりの材料を使ってスタンプ遊びを経験し、2学年では、クリアファイルシートを切り抜いた部分や切り抜いたまわりを版として使ったり、3学年では、紙で版を作る活動や紙以外の身近な材料で版をつくる活動を経験してきている。今回は、彫刻刀で版木を彫ることで絵柄を出す活動であり、彫ることによって版を作る経験は初めてである。だからこそ、この特別な経験をワクワク、ドキドキ感をもって楽しんで活動してほしい。導入では、安全面に留意した使い方を丁寧に指導しながら、彫ることの楽しさを味わわせる。また、作品例から彫刻刀でいろいろな

線が彫れることを知り、彫刻刀による線の違いに気付かせたり、版木の木目による彫る音や感触の違いを楽しませる。また、試し刷りをして、刷り上がった作品から形や色の感じに気付かせる。試し彫りや試し刷りから学んだ知識や技能を生かして、次時の下絵に描くことに繋げさせる。今回「想像力を広げることを促すための能動的な鑑賞活動」が中学年の重点研究テーマである。そのため、掲示装置で刷り上がった作品を掲示しながら乾かしたり、2人ペアで刷る活動を行わせたりすることで、自然と対話が生まれる環境を作る。友達の作品を見ながら考えて作ったり、作りながら見て考えたりと、表現と鑑賞が一体となるような場を作ることで、自分のイメージを広げ、自信をもって活動できるようにさせる。本題材では、自分で彫った線や形、模様から発想を広げ、自分のイメージに合った「不思議な世界」を表すことができるようにしたい。

3 学習指導要領上の位置づけ

A表現（1）

イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことを用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。

A表現（2）

イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、全学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。

B「鑑賞」（1）

「思考・判断・表現」

鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。

〔共通事項〕

「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。

イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

4 研究主題との関わり

（1）研究主題

「自ら学び、豊かな表現力をもった児童の育成 ～あいを広げる作品作り～」

（2）学年ブロックにおける研究重点

「想像力を広げることを促すための能動的な鑑賞活動」

（3）学年における研究仮説と手立て

仮説Ⅰ 発達段階に応じた技能を定着させ、個々の表現活動を認めれば、自信を持ち楽しんで表現活動に取り組める児童が育つだろう。

【手立て①】 導入の工夫

導入時に、教師の作品を示すことで、興味・関心を高め、児童が活動の見通しを持てるようにする。

【手立て②】 指導計画の工夫

プレ題材として、8切の1/4サイズの版木で彫刻刀による彫りや刷りを体験させることで、仕上がりを見通した彫りや刷りの技能が育つようにする。そして、大きな版画でやってみようという意欲を引き出す。

【手立て③】 ICTの活用

直線彫り以外での彫り方や刷り方の動画を流し、視覚的に捉えやすくする。

仮説Ⅱ もの、こと、ひととの交流を通して、「あい」を実感できる学習活動を展開すれば、自他の良さを理解し、自分の思いを豊かに表現できる児童が育つだろう。

【手だて④】 掲示装置の設定

掲示装置で刷り上がった作品を吊るしながら乾かすことで、友達の作品が目に残るようにする。表現や彫り方を認め合ったり、聞き合ったりすることを通して、自分や友達の作品のよいところを見つけ、自信を持たせる。

【手立て⑤】 目的に応じたグループの組み合わせ

お互いの作品を見合い、自然な流れで対話が生まれるよう座席やグループの組み合わせを工夫する。日常場面での表現の実態を考慮する。

【手立て⑥】 自然な対話を生み出す場の設定

2人組で刷る活動を行わせることで、友達の作品が自然と目に留まり、対話が自然にできるようにする。また、刷る手順を2人組で確認し合いながら作業をすることで、慌てずに丁寧に進めることができる。

5 目標及び評価規準

(1) 目標

- 彫ったり刷ったりすることを通して、形や色などの感じがわかっている。
- 彫刻刀の扱いに慣れ親しみ、表したいことに合わせて彫り方や刷り方などを試しながら工夫して表す。
＜知識及び技能＞
- 彫ったり刷ったりすることを通して、感じたことや表したいことを見つけ、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
- 自分たちの作品や製作過程で造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
＜思考力、判断力、表現力等＞
- つくり出す喜びを味わい、進んで版を彫刻刀で彫ったり、インクをつけて刷ったりし版画に表したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。
＜学びに向かう力、人間性等＞

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>〔知〕彫ったり刷ったりすることを通して、形や色などの感じがわかっている。</p> <p>〔技〕彫刻刀の扱いに慣れ親しみ、表したいことに合わせて彫り方や刷り方などを試しながら工夫して表している。</p>	<p>〔発〕彫ったり刷ったりすることを通して、感じたことや表したいことを見つけ、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。</p> <p>〔鑑〕自分たちの作品や製作過程で造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p>〔態〕つくり出す喜びを味わい、進んで版を彫刻刀で彫ったり、インクをつけて刷ったりして版画に表したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</p>

(3) 評価計画及び評価方法(○:指導に生かす評価、◎:全員の学習状況を記録に残す評価)

	1	2	3	4	5	6	7	8	評価方法
知識・技能		◎〔知〕		◎〔技〕	○	○	○		行動観察 対話 作品
思考・判断・表現			◎〔発〕		◎〔発〕	◎〔発〕	◎〔発〕	◎〔鑑〕	行動観察 対話 作品
主体的に取り組む態度	◎〔態〕	○						◎	行動観察 対話 作品

6 指導計画(8時間扱い)

- (1) 彫刻刀の名前と種類、持ち方、ルールを知り、直線彫りで試し彫りを行う。
- (2) 直線彫り以外の彫り方を知り、試し彫りや試し刷りをする。
- (3) 1回目で彫って刷った版から想像を広げ、試してわかったことをもとに、表したいものを考えて下絵を描く。
- (4) 下絵を版木に転写し、彫刻刀で彫る。
- (5)・(6) 彫り方を工夫して彫る。
- (7) 色の組み合わせを考え、工夫して刷る。
- (8) 仕上がった作品に合う台紙を選んで題名をつけて掲示し、自分や友達のを鑑賞する。

7 本時の学習(本時2/8時)

(1) 目標

○彫ったり刷ったりすることを通して、形や色などの感じがわかっている。

<知識・技能>

○つくり出す喜びを味わい、進んで版を彫刻刀で彫ったり、インクをつけて刷ったりして版画に表したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

<学びに向かう力、人間性等>

(2) 準備

教師：彫刻刀、版木(8切の1/4サイズ)、版画用紙(8切1/2サイズ)、作業台、ばれん、ローラー、インク、練り板、新聞紙、雑巾、大型テレビ、掲示資料、バケツ、木くず入れ

児童：彫刻刀

(3) 展開

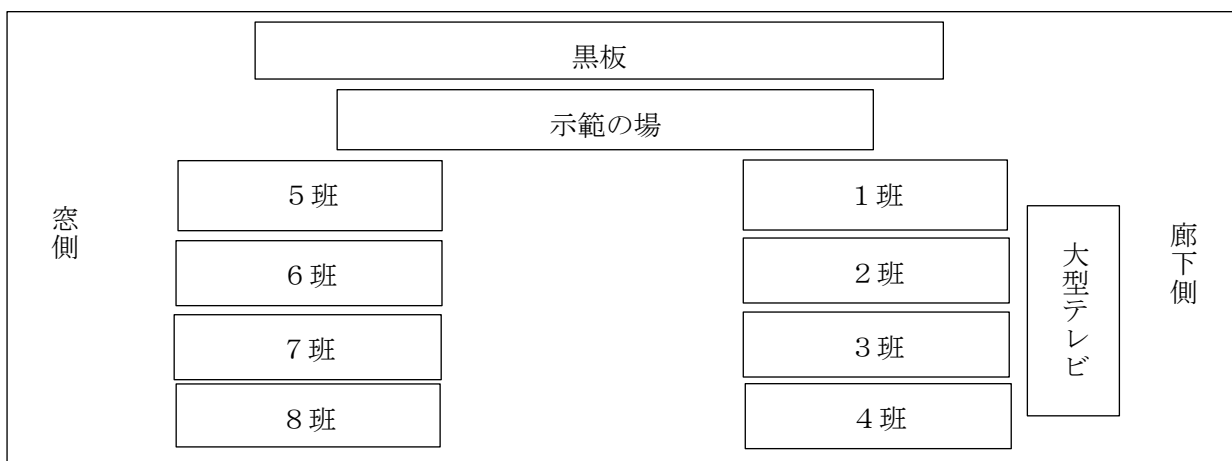
過程時間	学習活動 予想される児童の具体的な姿 (「」)	指導の工夫 (〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ_____)	評価と手立て 観点：評価規準(評価方法) ◎：十分満足できる状況 ◆：B評価に達しない児童への手 立て 【 】：研究仮説に対する手立て
導入 2分	<p>1 作品例を見て、表現方法を考える。(一斉) 「直線がある。」 「波線がある。」 「丸い形や点々模様もある。」 「丸刀以外の彫刻刀も使っているのかな。」</p> <p>2 本時の活動の見通しをもつ。</p>	<p>○前時の試し彫りからどんな線が増えたか話し合い、新たな彫り方についてのイメージをもてるようにする。 ○大型テレビで教師の作品を掲示する。</p>	<p>【手立て①】導入の工夫</p>
展 開	<p>3 直線彫り以外の彫り方や彫刻刀を使うときの約束を確認する。</p> <p>4 題材を体験する。 (1) 試し彫りをする 「丸刀を使ったら太い線ができたよ。」 「三角刀で細い線ができた。」 「同じ形を違う彫刻刀でも彫ってみよう。」 「縦はス～、横ではザザ</p>	<p>○直線以外の線は版木を回して彫ることを、動画で掲示する。 ○前時の「やくそく」について確認し、安全に留意した活動や管理ができるようにする。 ○丸刀、小丸刀、三角刀、平刀を使っていろいろな線や形を組み合わせて模様を彫る。 ○3つの事を意識して彫ることを伝え、木版の特性を味わわせる。 ①彫刻刀の種類による線の違い。</p>	<p>【手立て③】ICTの活用(動画)</p> <p>【手立て②】指導計画の工夫 主 つくり出す喜びを味わい、進んで版を彫刻刀で彫ったり、インクをつけて刷ったりして版画に表したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。 (行動観察・対話・作品) ◎いろいろな種類の彫刻刀を使い、いろいろな線を彫っている。</p>

提案 やってみよう。ほってすって楽しもう。

40分	<p>ザという音が聞こえたよ。」</p> <p>「彫りあとがざらざらしている。」</p> <p>「彫りあとがでこぼこしっていておもしろいな。」</p> <p>(2) 試し刷りをする</p> <p>「いろいろな色があってきれい。」</p> <p>「きれいに刷り上げるためにインクの量を調節してみよう。」</p> <p>(3) 友達と作品を鑑賞し合う（見て見てタイム）</p> <p>「刷ってみたら、彫りあとが写らなかった。だからもう少し深く彫ってみようかな。」</p> <p>「きれいな模様だね。」</p> <p>「どの彫刻刀を使ったの。」</p> <p>「同じ長さで彫るのが難しかったけれど、きれいに彫れてうれしい。」</p>	<p>②版木の縦や横で彫ったときの音の違い。</p> <p>③彫ったところの感触</p> <p>○刷り方の動画を見せ、ポイントを押さえる。2人一組で教え合いながら活動させる。</p> <p>○刷った後、さらに彫ったり刷ったりしてもよいことを伝える。</p> <p>○自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じ分かるようにする。[共]</p> <p>○<u>彫った形や色のイメージを基に、自分のイメージを持てるようにする。</u></p> <p>○自分が気に入った線や模様を友達に伝えたり、友達の表現のよさを見つけたりし、個々の活動のよさを認め合えるようにする。</p>	<p>◆同じ彫刻刀しか使っていない児童や、同じ彫り方しかしていない児童には、他の彫刻刀や彫り方も試してみるよう声をかける。</p> <p>【手立て③】ICTの活用(動画)</p> <p>【手立て⑥】自然な対話を生み出す場の設定</p> <p>【手立て④】掲示装置の設定</p> <p>【手立て⑤】目的に応じたグループの組み合わせ</p> <p>☒彫ったり刷ったりすることを通して、形や色などの感じがわかっている。(行動観察・対話)</p> <p>◎刷り上がりの作品を見て、彫りの深さや適切なインクの量がわかっている。</p> <p>◆彫りやインクの量に違いがある作品に注目させ気付かせる。</p>
整理3分	5 本時のまとめをし、次時の活動への見通しをもつ。	○次の時間は、試してわかったことをもとに、表したいものを考えて下絵に描くことを伝える。	

8 場の設定

(1) 図工室



(2) 児童の机（刷り）



- 各班は4人として、広々と活動させる。
- 刷る用具一式は、はじめ机の下に置く。
- 刷る活動では、椅子をしまい立って行わせる。
- 机の脇は、バケツとスポンジ、ぞうきんを置いておく。

9 板書計画

ほって表す不思議な世界

やってみよう！ほってすって楽しもう。

本時の活動の流れ

作品例

刷る手順

彫刻刀を使うときの
やくそく